産業人クラブだより ―かけはし―

トップインタビュー

再生エネ軸に環境事業
発電設備のノウハウ生かす

ハタノシステム社長（東京産業人クラブ女性部会）
波多野　容子 氏

東京産業人クラブ女性部会のハタノシステム（東京都目黒区、03・5740・6261）は〝エネルギーのトータルサービス企業〟を掲げる。主力である発電設備事業のノウハウを生かし、再生可能エネルギーを軸にした環境事業を展開している。2012年に「優秀女性経営者賞」（日刊工業新聞社主催）を受賞した波多野容子社長に、事業戦略などについて聞いた。

（中村典子）

◇

―非常用発電設備の施工・販売・メンテナンスで60年以上の実績があります。

「父で先代の波多野龍吉が創業し、ヤンマーの特約店として顧客のすそ野を広げた。全国5000件以上の納入実績がある。『東京スカイツリータウン』（東京都墨田区）にも納めた。現在、売上高の約9割は発電設備事業だ。売りっぱなしにはせず、きめ細かいメンテナンスを提供して顧客ニーズに応えている」

―近年は屋上緑化や再生可能エネルギー関連の環境事業を伸ばしています。

「これからの時代は自然を生かし、地球環境を汚さないビジネスが求められる。97年に屋上緑化事業を始めたのを機に、環境ソリューションを2本目の柱に位置づけた。発電設備に長く携わってきたノウハウを生かし、太陽光発電やバイオマスガス化コジェネレーションといった再生可能エネルギーの活用を提案している。持続性のある事業をじっくりと育てたい」

―01年に「ハタノ工業」から社名変更するなど、企業イメージや経営ビジョンの刷新に取り組んできました。

「一つのビジネスは30年で消滅すると言われており、時代に応じて変化しなくては生き残れない。経営者に必要なことは、会社の将来を語れるかどうかだ。技術については技術者に任せて全体のマネジメントに専念している。11年に本社と支社を統合・移転し、仕切りのない開放的なオフィスにした。社内のスムーズな意思疎通を大切にしている」

―安倍晋三政権は女性の活躍推進を掲げています。女性経営者として求めることはありますか。

「女性は体裁にこだわらず、現実的に判断する能力が優れている。データ管理や営業といった細かい配慮が生かせる職種にも適している。ただし、重要なことは性別ではなく、適性に合った役割を与えることだ。安倍政権には人材活用だけではなく、目先にとらわれない政策を展開してほしい。長期的な視点で設備投資環境を整えたり、観光産業を盛り上げたりと、日本全体がうるおう施策を講じてほしい」

はたの・ようこ　67年（昭42）跡見女子学園短大卒、同年ハタノ工業（現ハタノシステム）入社。92年社長。東京都出身。

産業人烈伝

オンリーワン技術に光明
日本耐熱線工業・石塚敏夫社長 ㊤

耐熱線とは耐熱絶縁電線のことで、セラミック素材を絶縁材料としており、1000度Cの超高温に耐えられる。湿式被覆装置（実用新案）を開発し、独自のセラミックフェルティング技術を確立して1000度Cに耐えるセラミックファイバー絶縁電線を製品化した。

日本耐熱線工業は国内唯一の耐熱線専業メーカーだ。1954年に石黒圭佑が川崎市渡田（現川崎区渡田）で創業した。内務省の官僚OBで、退官後、耐熱絶縁電線の製造ノウハウを取得して都電の車両用モーターコイルメーカーとしてスタートした。大手企業と競合していたため、安価な仕事しか受注できず、利益が考えられない仕事をしていた。「なぜか」と思ったが、本人が資産家だったからできたのだろう。

主力のフェルティング装置

私は高校卒業後、会計事務所に就職し、日本耐熱線工業を担当した。62年のことだ。石黒社長にはかわいがってもらった。重宝がられた揚げ句に〝社員扱い〟されて会社に呼び出されることもしばしばあったが、顧客先の一つにすぎなかった。

しかし、オイルショックの73年ごろに状況が変わった。石黒社長がある企業を代理店とし、原材料購入から製品販売までの全てを委託したことだ。メーカーとして主体性のない経営が続けば、悪影響が出る。後で知ったことだが、石黒社長は病に侵されていた。経営に対する意気込みが衰え、会社を閉じたいという気持ちになったようだ。

75年に療養中の石黒社長が亡くなった。相続者への経営引き継ぎが難しかったため、これまでの行きがかりから経営を引き受けざるを得なくなった。取引先からも「やめないでほしい」と言われた。何より当時在籍していた30人の社員の生活をどうするとの心配の方が先に立っていた。この時点では大赤字で経営を引く継ぐ要素が皆無の会社だったが、特殊な耐熱電線というオンリーワン技術に一筋の光明を感じた。何とかこれを世の中に広めようと考えた。

同年、社長に就いた。自らの預金・不動産を担保提供して金融機関から融資を取り付ける一方、取引先への状況説明に明け暮れた。だが、会社の債務は石黒社長の個人的なものを含めて年間売上高に匹敵していた。再建に奔走する日々が始まった。（全3回）

トピックス

滋賀 平安製作所
パミンド（インドネシア）に技術供与

滋賀産業人クラブの平安製作所（滋賀県高島市、高橋鉄次社長、0740・27・1271）は、インドネシアの自動車部品メーカーであるパミンド（ジャカルタ市）と、技術供与などの業務提携を結んだ。まず駆動系部品のドライブプレートの生産技術をライセンス供与する。パミンドの生産拠点を生かし、東南アジアに進出している日系自動車メーカーに部品を供給する計画だ。

平安製作所は現地進出を検討していたが、投資リスクが大きいと判断し、生産拠点がある協業先を探していた。一方、パミンドは自動車や2輪車向け部品が主力の中堅メーカーで、2012年の売上高は約42億円。日本企業の高い技術力を吸収して受注増を狙っていたため、両社の思惑が一致した。

平安製作所はドライブプレートをプレス加工で一体成形する技術を供与する。プレート生産量を15年に現在比2倍の年産100万個に引き上げる計画。技術者や営業担当をパミンドに派遣。技術者は生産技術のほか、現場改善手法や生産ラインの設計なども支援する。営業担当はVA（価値分析）提案の手法などを指導する。またパミンドの従業員を日本の現場で技術研修する。

現地に進出している日系自動車メーカー2社からパミンドを通じて部品供給する了承も得た。現地生産が本格化する。

インドネシアの車部品メーカーに技術供与するドライブプレート

小さくても本物

岐阜 スギヤマメカレトロ
海外の機械修理強化

岐阜産業人クラブのスギヤマメカレトロ（岐阜県本巣市、浅野博幸社長、058・323・3600）は、国内トップクラスの工作機械の修理・改良（レトロフィット）メーカー。5000台以上の修理実績を誇る。従業員数は110人で、近年は新品の専用機にも力を入れている。

床面積6625平方㍍の広い本社工場で、大小さまざまな機械や生産ラインの修理や改良をする。修理では設計図のない部品を新たに製作することが求められる。豊富な実績で蓄積した部品設計データは財産だ。8人の設計者を置き、必要に応じて迅速に部品の図面をつくる。

韓国進出など海外展開も積極的。日系の大手製造業の生産の海外シフトで、工作機械の修理・改良の需要が伸びている。これを受け、さらに海外事業を強化する方針だ。工作機械単品ごとの修理・改良のほか、大手メーカーとの契約による包括的な技術サービスにも力を入れている。

2013年8月期は売上高16億円。このうち3割程度が新品の専用機事業が占める。航空機の機体向け自動リベット打ち機や炭素繊維強化プラスチック（CFRP）積層装置などの受注が好調だ。14年4月をめどに航空機分野の品質管理規格「JISQ9100」の取得も目指している。

幅広い対応力を持つ本社工場

12―1月の予定

【12　月】

◇6日（金）新潟産業人クラブ「『12月の社長会＆忘年会』諸橋轍次記念館視察、久須美酒造による日本酒講座と利き酒会」（新潟県三条市、嵐渓荘）

◇9日（月）九州・山口産業人クラブ「講演と忘年の会『九州経済の動向と今後の展望（仮題）』講師／廣實郁郎九州経済産業局長」（福岡市博多区、博多エクセルホテル東急）

◇10日（火）栃木産業人クラブ「日本機械学会栃木ブロックとの交流会『技術教育における〝開発課題〟の取り組みとマイクロマシニングセンターの開発』講師／伊藤昌樹関東職業能力開発大学校超精密技術センター長」（宇都宮市、ホテル東日本宇都宮）

◇10日（火）名古屋産業人クラブ女性部会「学習会＆年末懇談会『情報を読む』講師／源石和輝東海ラジオ放送アナウンサー」（名古屋市東区、日刊工業新聞社名古屋支社）

◇10日（火）掛川産業人クラブ「勉強会＆忘年会」（静岡県掛川市、掛川グランドホテル）

◇17日（火）茨城産業人クラブ「忘年会」（茨城県水戸市、山口楼）

◇18日（水）名古屋産業人クラブ「第30回永井嘉吉記念賞選考委員会」（名古屋市中村区、名鉄ニューグランドホテル）

◇18日（水）―22日（日）九州・山口産業人クラブ「海外見本市・工場見学会　インドネシア視察ツアー」

【1　月】

◇16日（木）神奈川産業人クラブ「2014年新年合同祈祷会」（神奈川県鎌倉市、鶴岡八幡宮）

◇20日（月）新潟産業人クラブ「新春講演会＆新年会『ごきげん新潟弁講座』講師／近藤丈靖BSN新潟放送アナウンサー」（新潟市中央区・新潟グランドホテル）

◇21日（火）大阪産業人クラブ「新春互礼会」（大阪市北区、ANAクラウンプラザホテル大阪）

◇28日（火）神奈川産業人クラブ「賀詞交歓会＆特別講演会『2014年神奈川産業の展望（仮題）』講師／黒岩祐治神奈川県知事」（横浜市西区、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ）

◇30日（木）名古屋産業人クラブ「2014年新年賀詞交歓会＆経済講演会『中部地域の産業の展望と課題（仮題）』講師／山本雅史中部経済産業局長」（名古屋市中村区、名古屋マリオットアソシアホテル）

40年前からの悲願！
サンコー、本社工場建て替え

大阪産業人クラブのサンコー（大阪市淀川区、室井秀文社長、06・6394・3541）は、安全帯を手がける本社工場（写真）を建て替えている。2013年末に一部が完成し、14年秋ごろに全面稼働の計画。室井良樹会長は「1948年の創業時は編み機を製造していた。このため、安全帯の製造では不便を感じていた。（本社工場の建て替えは）40年前からの悲願だった」と感慨深げ。このほど、岡山県瀬戸内市の縫製工場（サンコー製作所）も完成した。生産増強計画が形になりつつある。室井会長は完成を心待ちにしている。

アマダの主力機械見学
神奈川産業人クラブ 長野産業人クラブ
技術者と交流

神奈川産業人クラブ（三木治一会長＝三木プーリ社長）と長野産業人クラブ（太田哲郎会長＝オリオン機械社長）は11月15日、アマダ・ソリューションセンター（神奈川県伊勢原市）で合同見学会（写真）を開いた。神奈川産業人から12人、長野産業人から4人の計16人が参加した。

アマダの担当者から事業活動や五つの部産（無借金、ブランド、即納入、直販、インフラ）などの説明を受けた後、実機を展示しているソリューションセンターに移動。約1時間かけてファイバーレーザマシン、パンチ・レーザ複合マシン、溶接システムといった主力機械の機能を確認した。限られた時間だったが、参加者は技術者の説明を聞いて満足そうだった。

見学会後、アマダ本社のフォーラム246で懇親会を開き、交流を深めた。冒頭、神奈川産業人を代表して三木プーリの伊藤弘執行役員総務本部長が「（アマダは）顧客と一緒になって課題を解決する顧客主義を具現化している。すべてをまねすることはできないが、有意義な見学会だった」と振り返った。続いて長野産業人のオリオン機械の吉岡万寿男専務が「長野産業人は発足してまだ3年目。今後もこうした交流を通して学びたい」と、両産業人クラブの発展を期して乾杯の音頭をとった。アマダ関係者らを交えて歓談が続いた。

産業振興懇談会を開催
埼玉産業人クラブ 県幹部らと意見交換

埼玉産業人クラブ（増田文治会長＝マスダック社長）と日刊工業新聞社は11月11日、ラフレさいたま（さいたま市中央区）で「第35回埼玉県産業振興懇談会」を開いた（写真）。会員ら約80人が参加し、埼玉県幹部らと意見を交わした。

第1部は山中融産業労働部長や秋山秀次郎埼玉県産業振興公社理事長ら県関係者9人が登壇。県産業界を代表して松野浩史エム・テック（さいたま市浦和区）社長、根本武夫幸大ハイテック（羽生市）社長、鈴木立日東テクノブレーン（所沢市）社長、原田岳巳ミック（日高市）社長が質問し、海外展開、医療、補助金などについて真剣に議論した。

第2部は県内優良企業を紹介。三輪精機（川越市）、共同技研化学（所沢市）、ワールドツール（深谷市）、大槙精機（朝霞市）の4社が事業戦略などをプレゼンテーションした。

第3部の懇親会には上田清司県知事、清水勇人さいたま市長、安藤久佳関東経済産業局長、坂本正喜関東財務局長らが駆けつけた。上田知事は「新たなイノベーションを起こして県経済を引っ張ってほしい」と呼びかけた。上田知事らを囲んで和気あいあいと情報交換した。

桜製作所の家具工場見学
四国産業人クラブ

四国産業人クラブ（西山彰一会長＝宇治電化学工業社長）は10月25、26日の両日、香川県内で工場見学とゴルフ大会を開いた。あいにくの雨模様だったが、会員ら17人が参加し、高松市内で家具を製造している桜製作所（写真）を訪問した。

まずジョージナカシマ記念館で無垢材を多用したオーダー家具や造り付け家具などを見学。その後、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）が徹底されている工場の現場を訪問した。職人の手作業による繊細な家具の製造、5Sが行き届いた工場に、参加者は皆、感嘆の声をあげていた。見学後には懇親会も開いて情報交換をした。

26日は坂出カントリークラブ（香川県坂出市）でゴルフコンペを開いた。前日の雨模様からうってかわり、絶好のゴルフ日和になった。

熱戦の結果、IIS協同組合（広島市西区）の畑下義雄氏がネット73・2で優勝に輝いた。準優勝は西岡鉄工所（愛媛県新居浜市）の西岡圭社長が獲得した。

会員の取引先拡大へ

大分産業人クラブ（太田清利会長＝ざびえる本舗社長）は11月12―14日の3日間、マリンメッセ福岡（福岡市博多区）で開かれた日刊工業新聞社主催の「モノづくりフェア2013」に出展（写真）した。活動状況をパネル展示したほか、会員の会社案内などを置き、新規会員の勧誘や取引先の拡大に取り組んだ。

モノづくりフェアに出展
大分産業人クラブ

ブースでは大分大学発ベンチャーのゼロテクノ（大分市）がコンクリート用混和材「CfFA」を、デンケン（大分県由布市）が三相交流発生装置を、八光産業（同中津市）がグライスライニング機器を紹介した。大分県産業科学技術センター（大分市）も県内企業と取り組んでいる電磁応用機器の開発事例を紹介。会員の取引先の関係者ら多数の来場者が訪れた。情報収集ニーズに応じ、製品や事業内容を紹介する担当者の声にも力が入っていた。

秋季ゴルフ大会
漆原氏が優勝
埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は10月31日、森林公園ゴルフ倶楽部（埼玉県寄居町）で、秋季ゴルフ大会を開催した。抜けるような秋晴れに恵まれた絶好のコンディションの中、会員や東京電機大学の関係者ら8人が熱戦を繰り広げた。結果、ラデックス取締役の漆原智実氏（写真左）がネット74・8、グロス76で優勝した。漆原氏はベスグロ賞、ドラコンも二つ獲得した。

2位はバンガードシステムズ社長の池野成雄氏、3位はアーベルソフト会長の佐藤達雄氏。プレー後は表彰式・懇親会を開き、和やかに産学交流を深めた。

秋季ゴルフコンペ
松井氏が優勝
新潟産業人クラブ

新潟産業人クラブ（佐藤金治郎会長＝佐文工業所常務）は11月2日、ノーブルウッドゴルフクラブ（新潟県新発田市）で秋季ゴルフコンペを開いた。偶然にもパワーヒッターの組、技巧派の組などに分かれ、秋晴れの中、11人が腕を競った。結果、アドバンエンジ（新潟市北区）の松井達也会長（写真右）がネット72・6、グロス95で優勝し、「まだ78才、これからも一生懸命がんばります。来年はもう一回、優勝の二文字に恵まれたい」と喜んだ。

ゴルフ会の関正廣会長（同左、セキサーマル会長）も松井会長の活躍を喜び「来年は若い方もぜひ頑張ってください」と期待した。

ベストグロスは新潟工科大学産学交流会の井田増夫事務局長がグロス83で獲得した。

新入会員

神奈川産業人クラブ
▽**平田　恒一郎氏**　ナイス社長（横浜市鶴見区鶴見中央4の33の1、045・521・6161、住宅建築用資材の流通・販売、マンション・一戸建て住宅分譲事業）

▽**藤田　博司氏**　湘南ビジネスマネジメント社長（神奈川県藤沢市南藤沢17の15、三井住友海上藤沢ビル3階、0466・86・5770、会計・税務・コンサルティング業）

掛川産業人クラブ
▽**鈴木　弘朗氏**　鈴木商店社長（静岡県焼津市三ケ名2533、054・628・6183、ねじ卸売）

名古屋産業人クラブ
▽**上田　修司氏**　上田公認会計事務所代表（名古屋市中区丸の内3の21の25清風ビル2階、052・524・0877、税務・財務コンサルティング）

▽**玉井　徹氏**　マルマン社長（愛知県稲沢市祖父江町野田堤並74、0587・97・7461、中古建設機械・フォークリフトの輸出、ファークリフト用ノーパンクタイヤ・ORタイヤ・農耕用タイヤの輸入）